

第2次明石市水産業振興計画 第3回策定委員会 議事要旨

令和5年8月22日（火）午後3時
明石市役所議会棟2階 第3委員会室

1. 開会

2. 会議内容

- ・第2次水産業振興計画 事業内容の優先順位
- ・傍聴者、委員からの主な意見
- ・第2次明石市水産業振興計画素案

（委員長）

明石市水産業振興計画策定委員会ではこれが3回目の会合になります。1回目には、今回委員に選ばれた9名で、それぞれの意見を述べさせていただくとともに市の方がどういう取りまとめ方針を持っているかということの確認をさせていただきました。思い起こせば、10年前に先の10ヶ年振興計画を作りましたが、そのPDCAが、前回計画ではなされなかったことは反省点です。

第2回目の委員会には、前回計画の策定に関わられ4名の方に来ていただきまして、この10年間、水産現場においてどういうことがあったのかを振り返らせていただきました。今日は、その意見と委員のみなさんからの意見を踏まえ、後ほど計画素案を提示させていただきますが、初回に配られたものからだいぶ修正が入っており、みなさんの意見を少なからず反映できたのではないかと考えております。一方で、まだまだ明石の水産業が抱える問題というのは大きいかと思しますので、今日は慎重審議よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、今回の議題であります、市から提示された振興計画の28項目の事業内容案について、優先順位をつけたらどうかということで、これから先10年具体的に実施するには何を優先されるべきかを考えるために、事前に委員の方々から意見を聴取していますので、事務局から説明していただきたいと思ひます。

【事務局 資料2を説明】

（委員長）

説明のありましたように、みなさんの優先順位が、資料2にまとめられています。カウントしてみたところ、一番多い意見が、「下水処理場の栄養管理運転」で、次いで、「資源維持型漁業の推進」と「産卵用たこつぼの投入」にも意見が集まっております。また、「蓄積された技術を生かした加工の研究」も優先度が高く、「食育活動の推

進」も意見が多く集まっています。

前回の議論で、4人の招待者のご意見にもありましたが、この10年間で明石の漁場が大きく変わってきた、そして再生しないことには魚のまちはもう成り立たない、ということがありましたので、最初に紹介させていただきました1番、4番、5番、6番、7番の「漁場を育てるためにはどうしたらいいのか」ということに非常に注目が集まっているのが一つのポイントだと思います。漁場再生に力を入れていく計画にしてはどうかということです。もう一つは、食育、加工技術、明石海峡の地魚というのは、これまで注目されておりましたが、「サンマの開き」は、明石の地魚ではありません。他所から持ってきたものをうまく加工し、明石の名物に育て上げております。今、日本中で未利用魚がどんどん話題になってきておりますので、通常の流通に乗らない魚を、明石の技術で光が当たるようにできないかという点も議論されました。

そして特に明石に住んでおられる方が、「明石の地のもの」や「明石の技術を使った魚」を食べられるようにしていくことも一つの焦点でした。「漁場づくり」と「明石の食文化を育てる」ところに、今回の委員の皆さんの意見がかなり重なっていると思いますので、この答申の中にも加えていきたいと考えております。

(委員)

水産加工業の立場で参加させていただいています。明石は何十年と続いている加工業が多い地域でもあります。加工はできるのですが材料がないというのが一番困っていることで、魚が住める環境をつくるのが一番だと思います。タコでいうと、市全体で最盛期の漁獲量1,400tから140tまで減ってしまっています。140tと言うと、1軒でも10年前加工販売していた量です。やはり資源の回復が一番です。

(委員長)

10分の1といいますと壊滅状態です。放置していても回復しないレベルになってきています。瀬戸内海を巡る環境が大きく変わっており、立て直し方法を含めて考えないといけないと思います。瀬戸内海の状況を大きく捉えて、この10年で大きく変わったということを前提に動き始めないといけないかと思います。これまでは、明石海峡、明石の海は豊かな海、それで魚のまちは育まれてきたというストーリーでできたのですが、前提がかなり変わっているということで出発する必要があります。

いただいたご意見をもとに、優先度を計画の中に反映して、この先10年間において、次にできることは何かということを考える必要があります。

資料の事業内容には、国や県の施策もありますが、市単独でしなければならない事業は予算措置も含めて、重点強化していく必要があると思います。

では次の議題に移らせていただきたいと思います。前回の傍聴者の方々、委員からの追加意見、その他計画を策定するにあたって幅広く意見を募集したところです。それらを審議に反映したいと思いますので、事務局からいくつかご紹介いたします。

【事務局 資料3を説明】

(委員長)

多様なご意見いただきましたが、先ほどの事業内容の優先度の分類と同じように、今水産現場が抱えている漁場の再生問題に関心が大きいと感じます。

「まちづくりの観点から、行政施策全般にわたって取り組みを広げてみては」という提案もされていますが、水産関連予算だけでは、多岐にわたる事業を推進するのは難しい側面があります。水産関係の部署はもちろん環境部局、下水道、下水処理場が協力して水質の改善を図っています。それから、子ども食堂や高齢者給食の問題など、まちづくりや福祉の視点から、対象者が魚と出会えていないという指摘もありました。魚を身近に感じられるものがが必要です。

「明石たこ大使 さかなクン」が活躍していますが、明石らしい魚、例えば夏のベラ・タコ・トラハゼといった、明石ならではの魚を普及させるには、文化教育行政も関係してくるのではないかと思います。

2番目に「様々な施設があったらいいのでは」という意見ですが、このたび神戸市の須磨水族園は経営主体が変わってエンターテイメント志向にシフトされます。新たに明石に水族館を造るのは難しいですが、歴史があり人気のある天文科学館を活用し、「水文科学館」として「水」をテーマに取り上げてもらうのも一案です。例えば、プラネタリウムにプロジェクションマッピングで海中を映すイベントがあれば、新たな集客にも繋がるのではないかと思います。また、文化博物館にも食文化関係の拠点があっていいのではないのでしょうか。

市内にあるさまざまな施設に、水産の観点を入れてリメイクしていけば、ご提案の中に繋がってくるのではないかと思います。どうしても魚の棚に一極集中してしまっていますが、明石の魚や食文化がわかるような店先展示があると、いろいろな場面で展開が図れるのではないかと思います。

下水道の管理運転の提案ですが、大久保浄化センターでは30年前に紫外線滅菌を取り入れております。施設整備に非常に費用がかかりますので難しい面もありますが、他の施設でも更新時期に考えられるのではないかと思います。

近代化補助金については、言わば機械屋さんへの補助金になっています。漁業がある意味、利用されている側面もあります。国庫補助金ですので、世論も味方につけて、国に要望を挙げていく必要があるかと思えます。

最後になりましたが、これだけの施策、特に新しい漁場再生や魚食文化形成の取り組みを進めていくには、人手が足りませんし、世代交代も必要になります。専門職は私からもお願いしたいところです。そういう方に、縦割りの枠を超えた連携をしていただきたいと思います。

いただいた意見を文案にもいくつか織り込んでいる部分もありますが、他に何かあ

りましたら、後ほど意見書を提出していただいても結構です。

それでは次の議事になりますが、第2次明石市水産業振興計画素案を事務局から説明をお願いします。

【事務局 資料4を説明】

(委員長)

今施策として提案されている中の具体的な内容を、いくつか修正していただいたところです。また、豊かな明石の海というこれまでの前提条件が変わってきていることを少し強調するような形で記載してもらっております。

先ほどの議題の中で、施策の優先順位について、焦点となる部分が「漁場づくり」と「食文化づくり」というところで整理させていただきましたが、事務局の説明につきまして、何かご意見ありましたらお願いいたします。

今、副委員長から、「この委員会は3回で終わりですか」という話もございました。「まだこれは煮えたらいい」「もっとこういうことも議論した方がいい」ということであれば、もう1回やってもいいのですが。

(委員)

水産業や漁業の再生ということで、初めてこのような場に来させていただきました。委員の方々には様々な提案をいただき、大変お世話になりました。今日、漁業者の代表者も傍聴に来ていますが、漁業者の要望は概ね一致しています。下水処理の栄養塩管理運転、施肥・藻場の再生、産卵用たこつぼの投入は、現状の事業を継続しつつ、もっと増やしてほしいというのが正直なところです。10年前の水揚げ量に戻したい要望はみんな持っています。この度は、市議会議員の多くの方々にも傍聴に来てもらい感謝しています。この場をお借りし、豊かな海づくりに関連した事業の継続はもとよりさらなる推進をお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

(委員長)

10年前は計画を作って終わりました。その後、12年目によく声をかけていただいて、また開くことができたのですがこれではいけません。計画倒れということになってしまいます。立てた以上は、計画の内容を実行する必要があります。いくつかの施策は実行されましたが、棚上げになっている事業もあります。これから先の10年、どのように進めたらいいのか、先ほどご意見の中に、水産専門員を強化したらどうかという意見や優先度が高い施策を重点的にすすめるべき、という意見がありまし

た。計画を実現していくためには、この策定委員会のままである必要はないですが、何らかの装置が要るのではないのでしょうか。その時々状況や変化に対応するため、例えば、別の会議体を設けて、チェックして改善し検証していくことも必要ではないかと思えます。2次計画の最後に記載する必要があると考えております。

昨年、明石市豊かな海づくり条例が、議会提案により制定されています。この中で明石はやはり「魚のまち」として発展して欲しいということが謳われています。条文の最後の方に、「市は、本条例の目的を達成するため、関係する施策の推進に必要な体制整備を図る」という組織の体制強化と、「必要な財政上の措置を講じるよう努めなければならない」という財政支援の項目が設けられています。今回の策定委員会で、重点施策だと議論された事業には、ぜひ予算をつけていただきたいと思えます。

また、「市長は豊かな海づくりに資する施策の総合的計画的な推進を図るため、毎年度、豊かな海づくりに関して行った施策を議会に報告するとともに市民に公表する」という条文も設置されています。市が実施したことを、決算委員会で報告するだけでなく、市民のフィルターを通して検証していくことも必要なのではないかと思えます。この計画の最後に、今後の進め方という項を設けていただいて、年に1回、進捗状況を確認するための委員会を設けて、状況の変化や進め方をチェックして、新たな要望があった場合には、それに対処する体制づくりが必要ではないかと考えております。事務局から、今後の検討に踏まえて書いているところがあるのですが。このところは、何かご説明ありますでしょうか。

(事務局)

事務局です。先ほど委員長からありましたように第2次計画の中には、計画の推進と見直しの項はもちろん、それとは別項で、こうした方がいいのではないかという委員のみなさんの意見や要望も、この項に入れていくことで、2次計画の事業内容の実現に生かしていけたらと思っています。以上でございます。

(委員長)

46 ページに5つの項目を挙げております。「1 漁場生産力の再生」、それから「2 現状把握の評価」です。現状把握については2、3年前とか5年前までの統計しかないということもありましたので、直近の状況もしっかりと掴んでいく必要があります。また、「3 明石ならではの技法で未利用魚の活用」、そして「4 明石産というものの優位性」について、市民の地魚購入機会の減少に対処するため、何か良いアイデアはないのでしょうか。委員の方々から、ご意見を頂戴したいと思います。

(委員)

事業内容の15番目「市場機能の合理化・効率化」についてお聞きします。現在の藤江の管理センターは、移転の話は出ているのでしょうか。明石浦漁協と林崎漁協は、漁協が運営する市場がありますが、それ以外の漁協は、藤江の卸売市場に魚を搬送し

ています。利便性の観点から、建て替えをするなら海から離れた場所ではなく今の場所をお願いします。

(事務局)

藤江の公設卸売市場については、かなり老朽化が進んでおり、今後、移転や建替えについて、検討しなければいけない時期に来ていると認識しています。移転や建て替えには相当な予算を伴いますので、具体的な話には至っていないような状況ですが。今後、どうしていくかを、関係者、議会、庁内他部署等とも相談しながら検討していきたいと思います。

(委員長)

卸売市場法も改正されておりますので、従来の流通拠点のような形ではなく、新たな食文化の発信拠点としての機能も市場の役割ということをつけ加えれば、明石の食文化の発信地の一つになると思います

(委員)

加工業者の立場から、未利用魚の活用については、結局、漁業者さんと運命共同体になります。資料には、水産加工業者半減となっておりますが、今年に入り2件の廃業があり、3分の1になってしまいました。魚が増えてこそ水産加工業が成立するので、豊かな海の再生や加工の近代化など、漁業者の皆さんと一緒にやってく必要があると思っています。

(委員)

今回参加させていただいて、行動の全てが大事だということがよくわかったのですが、消費者はやはり食べて買ってくれるのが一番。今日も美味しいタイとノリを使ってお料理教室を開催してきました。たくさん発信していきたいと思います。

(委員)

今回の第2次水産業振興計画ですが、例えば1年ごとに、進捗状況をチェックしていくような方法をとった方がいいかと思います。また、藤江の卸売市場の件ですが、明石の港の位置づけから場所的には妥当な位置だと思います。一方で、場外取引の割合が増加している中で、市場を廃止している市町村も結構あります。

明石の場合、場外取引が増える中で市場を維持していくとなると、いかに取扱高を維持しつつ、存在価値を高めるような、例えば、観光資源としての活用や一般市民への開放など、何か方法を考えていく必要があると思います。

(委員長)

私は下関に行っておりましたが、有名な唐戸市場があります。この市場は、ほとんどが寿司店みたいな状況になって、一大観光施設になっています。ここまでとは言いませんが、例えば、消費者団体が行う料理教室と連携した取り組みも一案ではないかと思えます。

(委員)

魚を購入する機会が減っている中で、明石産の魚に対する親しみを持ってもらうことが一番で、次に、手軽に調理できる魚、加工してもらった魚を、いろいろ工夫して販売すると、共働きの家庭の方でも利用できると思えます。

例えば、何かツミレみたいになっているものをお鍋にするとか、簡単に調理できて、種類もたくさん増えたら、値段が高くて、もっと美味しい魚を買ってみようという気持ちになると思えます。明石の加工技術を使っていろんな種類の魚のおかずが増えたら嬉しいです。

(委員長)

明石産の魚（磯魚）は無くなりつつあります。ノリとシラスなどの浮魚に関しては結構獲れています、いわゆる磯魚と言われるような地の魚は非常に少なくなっているというのが現状です。淡路島や日本海（但馬）、岡山で水揚げされる魚で、余っているものがあれば、もしかしたら明石の技術を使って食べる工夫も提案できるのではないかと思います。もちろん、漁場が再生されて、明石の漁師さんが獲ってくるものが増えるのが一番いいのですが、すぐに改善しそうにないというのが現状です。

また、市民目線で、魚と接する機会が遠いので、もっと身近にできないかという提案がありました。これまでは、中心市街地にある魚の棚で魚を買うことができていました。しかし、若い世代は、魚の棚や量販店で明石産に出会える機会もありますが、一部の高齢者など、宅配に頼らないと生きていけないという買い物難民の人たちもいます。そういう人たちは、魚との接触機会が非常に減っています。

神奈川県鎌倉市では、買い物難民の多い自治会が魚屋さんを誘致しています。水産関係で著名な上田勝彦さんという方が仲介し、漁場から魚を直送させ、自治会が魚屋を開設し自ら販売しています。週ごとに場所を移動し、店舗を開設する。要は消費者が待っているところへ魚が届けられるような仕組みを、鎌倉市は去年から始めています。

明石でも、市民の食卓に届くような仕組み作りを今後考える余地があります。鮮魚だけでなく、一次加工した魚の利便性が上がると思えますし、福祉給食をしている方々の負担も軽減できます。一方で、このような方策は、福祉政策であり、まちづくり政策でもありますので、水産部門だけでは実現不可能です。他部門にも積極的に協力を求める必要があります。

(委員)

この計画は10年間で目標を達成するものですが、前回計画では12年間見直しが必要ありませんでした。仕事が増えてしまう話にはなりますが、中間的に現状と齟齬が発生するようでしたら、一度見直しする機会を作る必要があると思います。

先ほど進行管理の話がありましたが、水産業界の各漁協などから、この事業をやってほしいという内容に関してもう少し具体的な要望を上げていただいた上で、アクションプランを作って、進めていってはどうかと思います。

(委員)

漁場生産力の再生というのが一番大きい課題だと思うのですが、予算を伴う話なので、例えば、水産物が、何年後にどれくらい増やすのか、現状維持が目標なのかなど、目安でも良いので数値目標が盛り込めると分かりやすいと思いました。なかなか、難しいと思いますが。

(委員長)

一般的には、行政計画には数値目標が求められます。しかしながら、経済・商業、工業活動であれば目標を立てられるのですが、水産業は自然産業という側面もあり、自然に影響される部分が大きいです。また、栄養塩類不足による漁獲減少は、明石だけで起こっていることではなく、西日本が特にひどくて全国的に起こっていることです。明石市だけでは解決する問題ではなく、県や国も動かないと解決できません。

大阪湾や播磨灘の漁場再生においては、試行錯誤しながら、これ以上ひどくならないように、栄養塩類管理計画や、県条例などを制定し、豊かな海づくりを進めていますが、まだまだどれが効果あるのかは見えていない状況です。

市外県外にもアンテナを広げ、打開策が見えるような先進的な取り組みを研究するなどして、改善に繋げることが重要です。

施肥に関して言えば、農業と違って直接肥料を与えれば作物ができるというのではなく、潮流で肥料が流れてしまいます。大きな視点になりますが、生態系の底力をつけていくことが重要です。30、40年かけて潰してきたものを、もう一度どのように立て直していく段階ではないかと思いますので数値目標というのはなかなか立てにくいというのが現状です。

一方で、水産業に関連する事業者はまだ多く残っており、海と向き合おうとしています。地方都市はほとんどシャッター商店街になっていますが、魚の棚商店街はそうではないのです。まだ何かの魅力が明石にあるということですので、力があるうちに何か次の一歩が出せないかという点がポイントではないかと思います。

(委員)

5つの事業内容については、何が大事と言うより全部大事です。地場の魚があんなに毎日毎日水揚げあったのに、本当に一生懸命やっても獲れない。明石浦では、買い

手の競りによって落とされます。今は魚の値段が肉よりも高くなります。一般の人が聞いてびっくりする値段です。日本全国に送る人や魚の棚だけで商売する人など、魚がどうしても必要な、様々な買い手がいる中で、値段がどんどん上がり、競り師の声が変わってくるくらいです。形がいいと思っていたら、すごい値段になっていきます。

明石では、昔から夏のベラは大衆魚で山ほどありました。ウロコを取らず内臓だけ処理して焼くというような簡単に食べられる魚でした。そういう魚を今、見かけることが珍しくなっています。また、味もその見た目も昔と全然違うようになってきているように感じます。例えば、メイタガレイで言うと、昔はすごく大きかったのに今は痩せています。昔から何十年も魚見ているから良くわかります。

私の家はタコ曳き漁師だったのですが、何時間曳いても獲れないから、今はタコ漁を止めて、サワラ漁に切り替えています。サワラがすごく今揚がっています。時期的に仕方がないのですが、値段は安いです。自分たちが食べていけるように頑張らないといけないので漁師は沖に行きます。ガシラは意外と獲れています。地場の魚は本当にいなくなったという印象です。ベラやタコ、メイタガレイが少ない。あれだけいたのに何でいなくなったのか不思議です。

(委員長)

明石の魚が好きな人にとっては、今本当に暮らしにくい状況になっています。しかし、サワラなどが今たくさん獲れているというのも、現場の声を聞いて初めて分かることです。回遊性のものは一度に獲れたりしますので、刺身から始まり、塩焼き、みそ漬けなどにしてあっさり食べられます。未利用魚という言い方をしていますが、これは全国共通の話題にもなっていることですが、広域流通に積み残しになったものは、市場では色物と呼ばれ、トロ箱で詰め合わせになっているのでほとんど値が付きません。今、それを選び分けて売っていく魚のプロの方々の人件費が出ないから、流通から外れてしまう訳です。集めて通販で儲けているところもあるくらいですから、明石の加工技術力で何とかできないかと思えます。

当初の事務局案では、地魚をどう活かすかという内容でした。前回の計画でも議論されたとおり、地魚は現在いなくなってしまい、利用できる魚は少なくなっています。各地の未利用魚の中で、明石の技術に合うもの、また、明石市民が食べて食生活が豊かになりそうなものを探していく必要があります。今日は、漁協の組合長さん方に来ていただいています。現場の経営ももちろん大事ですが、明石産の魚を触るという意味合いを、もう一度見直して引き継いでいくことも大切なことではないかと思えます。

この計画には、かなりの内容の文章を盛り込んでおります。そして最後の 47 ページに、今後の計画の推進と見直しという内容が記載されております。前回のように 10 年放っておくのではなく、推進体制を強化することについても、これからの 10 年の計画を進めていく上では必要があろうかと思えます。市の組織体制も強化していただ

き、漁業関係、食文化関係、市民の方々の意見が反映されるような会議を年に一度持っていていただき、豊かな海づくり条例に沿った形の施策の展開がされることを願うところです。もちろん、この10年間振り返ってみて、水産振興施策を全くやっていないと言っているわけではありません。様々な業務に追われて大変だと思います。とりわけ、漁港施設は市の管理になりますので、漁港内のプレジャーボートの係留問題をどのように整理するのも大きな課題です。本計画の進捗状況の確認と組織の強化については、答申という形で要望させていただきたいと思います。

この後、パブリックコメントを実施する予定ですが、それまでに、委員のみなさんに最終確認をお願いしたいと思いますので、素案をご確認ご一読いただき、何かご意見、訂正場所があったらご指摘ください。また、その修正を含め、パブリックコメントにつきましても、委員長一任という形で私に任せていただきましたら、事務局と調整し計画素案として、一緒に答申していきたいと思います。

3回の策定委員会を開催しましたが、非常に充実した議論ができたのではないかと思います。特に2回目に、前回計画の委員の方々からご意見をいただいて、水産業の現状がよく分かったのではないかと思いますし、今後の取り組みのヒントになったのではないかと思います。そして、委員のみなさまからは、積極的に、様々なご意見を頂戴しまして、非常に中身のある計画素案ができたのではないかと思います。最後になりましたが、厚く御礼申し上げます。